

## 2025年トカラ列島群発地震 海底で何が起きている？

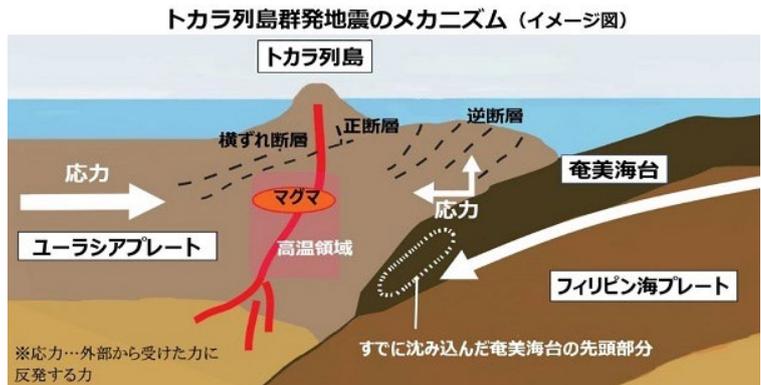
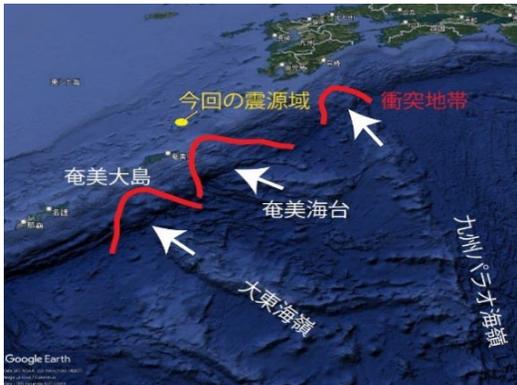
(読売新聞 くらし×防災メディア 「防災ニッポン」 2025/6/27 )

熊本大学大学院 先端科学研究部 横瀬久芳 准教授 インタビューより



## ①フィリピン海プレートの上の海底台地が陸側プレートにぶつかるのが原因

この海域でもぐり込むフィリピン海プレートが、巨大な海底山脈をつくる大東海嶺や、巨大な海底台地の奄美海台を乗せているからとみられています。この海域ではフィリピン海プレートが沈み込む際に、海台がユーラシアプレート側の地殻にぶつかります。分かりやすく言うと、トカラ列島近海は、ほぼ九州サイズの大型ダンパーカーが100万年くらい衝突しつづけているような特殊な海域なのです。



## ②沈み込んだ「海台」の先頭部分が影響して群発地震が発生

フィリピン海プレートが海台ごとにもぐりこむ際、ユーラシアプレート側の地殻は上にめくれ上がったり、左右に引きちぎられたり、海台がユーラシア大陸の岩盤にひっかかって横に引っ張られたりして、海台の周囲には様々な方向に複雑なひずみが生じます。(中略)

トカラ列島は火山の噴火でできた島で、海底には高温のマグマがあります。ユーラシアプレート側の地殻は深くなるほどマグマに温められ、伸び縮みしやすく、割れにくくなっているとみられます。逆に浅い部分はマグマから遠く、あまり温められないため、岩盤は固く割れやすい。群発地震の規模(マグニチュード)が、震源が深くなるほど小さくなっているのは、このためとみられます。

?鹿児島県の桜島や新燃岳が噴火していますが、群発地震はトカラ列島の火山噴火につながるのでしょうか。また、南海トラフ地震との関係はあるのでしょうか。

震源付近の地溝は、横ずれの向きも火山列の向きとは異なります。噴火の恐れはゼロではありませんが、震源分布の特徴や火山性地震の特徴は今のところ認められておらず、群発地震は火山噴火の前兆ではないと考えてよいと思います。群発地震の震源が海であることから、津波を心配する声もありますが、津波は動いた断層が長いほど大きくなります。警戒は必要ですが、群発地震で動いた断層の距離は短く、大きな津波が起きるとは考えにくいです。

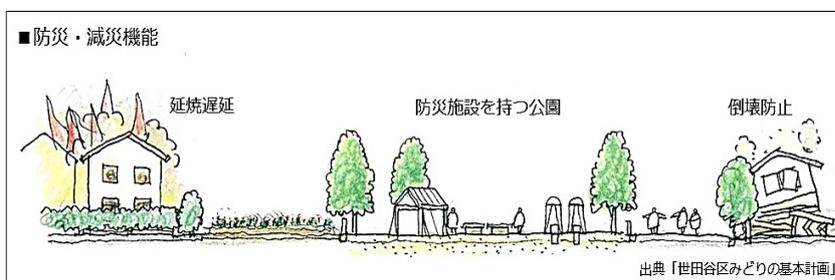
# 防災 × 公園 × わたし

## ～住民主体で活用を決める動き～

身近な環境の中に楽しみを求める傾向が強まるなか、公園もただ遊具や樹木がある場所から、住民が交流する場としての新たな役割が求められるようになってきている。ただ京都というまちは、公園が少ない歴史的背景があるという。というのも、市内中心部では近代以前に市街地が形成されており、災害や戦災の被害も少なかったため、区画整理がされずに新たな公園整備が難しかったという。また景観を重んじる市としては、山を切り開いて整備することもこれまた難しい…。

### ● 首都直下型地震に備えて

2022年以降30年以内に70%の確率で発生すると予想されている首都直下型地震等に備えて、関東各諸地域では、自治体や住民が協働で行われる「防災・減災」に向けての取り組みも見られるようになった。



### ● 災害時の公園の役割

普段の公園は、遊び場、運動や散歩の場、休息の場などで使われているが、災害時においても重要な

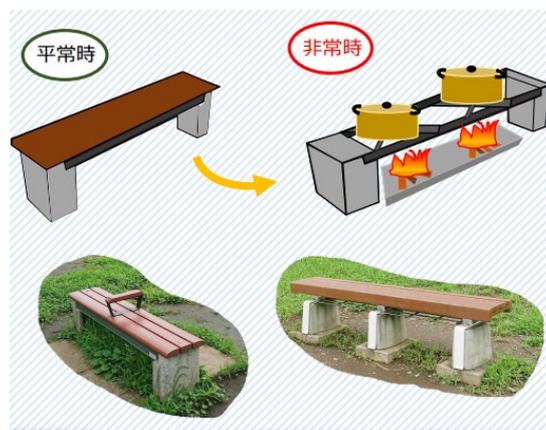
役割を果たすのではないかと期待が寄せられている。例えば火災時の延焼遅延の機能、一時的な避難場所、仮設住宅の用地など、安全で災害に強い街づくりに役立つのではとされているのである。

### ● 公園の防災施設

また、防災機能の向上のため、近年災害用マンホールトイレ、災害用井戸、かまどベンチ、太陽光発電灯など諸設備の設置も急務とされている。今回は、「かまどベンチ」について、少し紹介してみることにしよう！！

一部の公園では、非常時には「かまど」として利用できるベンチがある。座板を外して、薪や炭で火を起し、炊き出しや暖を取ったりすることができる。

ひとり掛けのスツール型、一般的なベンチ型、数人が座れる縁台型など様々なタイプも考案されている。京都でも、新しく設置された公園においては、順次こういった防災設備が設置されつつあるようだ。長岡京市では、既に市立の中学校に、この「かまどベンチ」が設置されている。皆さんも、ぜひ近隣の公園、避難場所にどんな設備があるか調べてみるのも「夏の自由研究」の材料になるのではないだろうか。



▲かまどスツール

▲縁台型のかまどベンチ